



年に一度のフェスティバル

西城自治振興センターフェスティバル・3/11 No.6

西城自治振興センターで、2回目となる西城自治振興センターフェスティバルが開催され、約250人が訪れました。

当日は、おばけ屋敷、スプーンに乗せたピンポン球を落とさずにゴールを目指すイライラ棒などのアトラクションや、ミサンガ・ストラップを作る工作、お楽しみライブなどが行われ、会場は盛り上がりました。また、フードコーナーでは肉うどんや豚丼、フライドポテト、焼きそば、サーターアンダギーなどが販売され、味わった人は舌鼓を打ちました。

来場した子どもは「友達と一緒にいろいろなイベントに参加できて楽しかった」と話していました。



▲組紐を使ってミサンガなどを作る子どもたち

身を守り、地域を守る

支えあいつくりのつどい・3/17 No.8

「高野地域の支えあいつくりのつどい」が高野保健福祉センターで開催されました。住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために何ができるのか考えることを目的に、市社会福祉協議会、自治振興区などが合同で企画しています。

当日は高野中学校生徒による意見発表やシルバーリハビリ体操、なんずかんづつながる会の活動報告、災害時における消防団の活動報告があり、70人の来場者は真剣に耳を傾けていました。

消防団の活動報告をした堀江修治高野方面隊長は「災害はどの地域にも起こりうるので、これを機に自分の住んでいるところは大丈夫だと思わずに危機意識を持ってもらえるとうれしい」と話していました。



▲堀江方面隊長から消防団の活動報告

大きな声で火の用心!

防火パレード・3/5 No.5

庄原消防署と庄原幼稚園は、市役所本庁舎前の市民ひろばを出発点に、防火パレードを実施しました。

これは、3月1日から7日まで行われた「春の全国火災予防運動」に合わせ、火災予防の意識を一層高め、火災の発生を防ぐことを目的に実施するものです。

当日は晴天に恵まれ、園児たち約50人がまちなかを元気よく行進し、市民の皆さんへ火災予防を呼びかけました。

空気が乾燥し、火災の発生しやすい季節となりました。火の取り扱いには十分に注意しましょう。



▲そろいの法被で火の用心を呼びかける

春を告げる花 節分草

節分草自生地公開・2/16-3/10と節分草祭・3/10 No.7

総領町内7カ所で、市天然記念物「節分草」の自生地が公開されました。また、公開期間にあわせ、総領小学校児童によるボランティアガイドや寄せ植え教室、写真講座が行われたほか、日曜日には里山総領体育館に巨大段ボール迷路が設置され、多くの人が楽しんでいました。

節分草祭では、道の駅リストア・ステーションに地域団体によるバザーが開かれたほか、総領中学校生徒による節分草の紙芝居、自生地を巡るノルディックウォーキングも行われ、多くの人でにぎわいました。

NPO法人節分草保存会の矢吹正直理事長は「公開当初から多くの方にお越しいただいた。これを励みに、これからも、保護・普及活動に努めていきたい」と話していました。



▲総領小学校児童による節分草ボランティアガイド

ドローン技術に期待する

庄原市ドローン活用推進セミナー・3/17 No.2

かんぼの郷庄原で「庄原市ドローン活用推進セミナー」が開催され、約80人が参加しました。

主催者の「庄原グローバル・ドローンイノベーション協議会」は、ドローンの積極的な利活用と、ドローン技術を活用した市内産業の発展と起業につなげる活動を行うため、2月22日に設立された組織です。

今回のセミナーでは、リモートセンシングサービスについての講演や、7組の団体による「ドローンの操縦技術を学べるスクールや練習場の開設」「ドローンによる米の生育調査や除草剤散布」「森林の現場管理に活用している市内での取り組み」などの活用事例の発表が行われました。



▲ドローン活用についての講演や事例発表が行われた

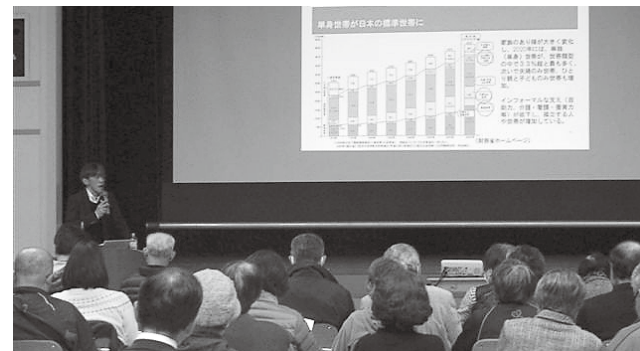
地域の助け合いと防災の意識を

福祉講演会・2/27 No.4

比和自治振興センターで、福祉講演会が開催されました。この講演会は、地域住民の福祉向上や、高齢者の健康促進のために活動する「比和きずな会」が、一人暮らしの高齢者の急増などを踏まえ、多発する災害への対策などについて意識を深めてもらうことを目的に企画されました。

当日は、全国で地域福祉や災害支援などに関する活動を行うローカリズム・ラボの井岡仁志さんが「日常の助け合いと防災を考える」と題して講演しました。

終了後、参加者は「いざ災害などが発生すると、地域内でのつながりや助け合いが大切。これからは、もっと横のつながりを意識していきたい」と話していました。



▲地域の助け合いやつながりが大切だということを学んだ

一年間の成果を披露!

第6回東城自治振興区まつりステージ発表会・3/2 No.1

庄原市東城文化ホールで、東城自治振興区まつりステージ発表会が開催され500人が集まりました。

このイベントは東城自治振興区の生涯学習教室として活動している団体を中心に、1年間の成果発表などを目的に開催されています。

当日は21団体が次々に踊りや唄、楽器の演奏、体操や空手の実演などのパフォーマンスを行いました。また、会場内では茶道教室のお茶席や、うどん、おこわなどのバザーもあり、来場者はステージの合間に食事を楽しみました。同自治振興区会長の金丸和夫さんは「今後も多くの団体に参加してもらい活気ある地域にしていきたい」と話していました。



▲ステージでは詐欺防止啓発の寸劇も披露された

活動発表から地域の支え合いに

くちわのつどい・3/2 No.3

口和自治振興センターで、口和自治振興区、庄原市社会福祉協議会などが主催する、第10回くちわのつどいが開催され、約100人が参加しました。

つどいが始まると、口和中学校の生徒会執行部の皆さんが、地域のお年寄りのお宅を訪問し、本の読み語りなどを行うボランティア活動についての発表を行ったほか、永田ふれあい自治会が「世代間交流」について、向泉自治会が「自主防災組織の活動」について発表しました。

発表後、雲南市の中野の里づくり委員会集落支援員の石飛真知子さんが「“やってみる”からつながった地域の輪」と題して講演したほか、地元団体のバザーもあり、来場者は充実した1日を過ごしました。



▲活動発表や講演などで住民は地域のつながりを深めた